

汎用自動レイアウトエンジン ジェダール チュートリアル

Mk2 070723

はじめに
プロジェクト 2
データソース
テンプレート 4
マスター
レイアウト実行 10

文中のアイコンについて

▲ 注意点等
 ✓ 有効な情報/ヒント等
 ▲ 愛知情報等

はじめに

チュートリアルを始める前に、Ge-DALe のアプリケーションとサンプルプロジェクトデータをハードディスクにインストールし ておく必要があります。

まだアプリケーションをインストールしていない場合は、CD-ROM 内の Ge-DALe アプリケーションアイコンをハードディスク のアプリケーションフォルダにコピーしてください。

サンプルプロジェクトデータは、デスクトップ等のハードディスクの任意の場所にコピーしてください。

これで準備完了です。

【2 インストールについての詳しい内容は、ユーザーガイド「2. インストール」をご参照ください。

プロジェクト

「サンプルプロジェクト」フォルダの中は、各レイアウトソフト毎のフォルダによって分類されています。ご使用になるレイアウ トソフトのフォルダの中に「チュートリアル」というフォルダがありますので開いてみましょう。

「チュートリアル」プロジェクトフォルダが開きます。Ge-DALe では、プロジェクトフォルダをひとつの仕事の単位(プロジェクト) として取り扱います。プロジェクトフォルダの中には自動レイアウトを行なうための設定や素材が収められています。



この中にある「プロジェクト」というファイルが Ge-DALe のプロジェクトファイルです。プロジェクトファイルには自動レイア ウトの各種設定が保存されています。

それでは Ge-DALe を起動してこのプロジェクトファイルを開いてみましょう。ファイルメニューから「プロジェクトを開く …」 を実行し、プロジェクトファイルを選択して「開く」ボタンをクリックします。

新規プロジェクト	ЖN
プロジェクトを開く	жo
プロジェクトを閉じる	жw
プロジェクトを保存 プロジェクトを別名で保存	₩S
ドキュメントフォルダをク! ログフォルダをクリア	リア

大きなウィンドウが開きました。これが Ge-DALe のプロジェクトパネルです。プロジェクトパネルは自動レイアウトの設定や実 行等、プロジェクトのすべてをコントロールするパネルです。

最終的にはこのプロジェクトパネルから自動レイアウトの命令を実行することになるわけですが、ひとまずここではパネルを開いたままで、ひととおり自動レイアウトの素材や仕組みについて説明していきましょう。

【2 プロジェクトフォルダについての詳しい内容は、ユーザーガイド「4. プロジェクトフォルダ」をご参照ください。

データソース

それでは、まずはじめにデータソースを見てみましょう。データソースとは自動レイアウトに使用される元データのことです。 Ge-DALe ではテキストや各種データベースをデータソースとして利用できます。

プロジェクトのデータソースフォルダの中にあるテキストファイル「チュートリアル CSV」をテキストエディタで開いてみましょう。



組版に使用するデータがカンマ区切り (CSV 形式) で記述されているのが確認できると思います。

Ge-DALe ではテキストの1行目が項目名として取り扱われますので、実際に流し込みで使用されるのは2行目以降のデータとなります。

もう少しデータを細かく見てみましょう。

氏名や会社名等、文字として流し込みに利用されるデータは、基本的にその文字列がそのまま組版に使用されます。

それでは画像を流し込む場合はどのように指定すればよいのでしょうか。

画像ファイルの指定の仕方には2通りの方法があります。ひとつはフルパスを記述しておくという方法、もうひとつはファイル 名のみを記述しておくという方法です。

フルパスで指定する場合は、ハードディスク等のボリュームからファイルに到達するまでのパスをコロン (:) で区切って記述しま す。

ファイル名のみで指定する場合は、あらかじめ該当ファイルをプロジェクトの画像ファイルフォルダに格納しておく必要がありま す。

このデータソース「チュートリアル CSV」の「画像ファイル」というデータ項目を見てください。画像がファイル名で指定されています。

確認のために画像ファイルフォルダを開いてみましょう。データソースで指定されたファイルが格納されているはずです。



また、画像の指定と似たような形で、流し込みに使うひな形(テンプレート)をデータソース上で指定することもできます。テン プレートは必ずファイル名で指定し、使用するテンプレートファイルはあらかじめプロジェクトのテンプレートフォルダに格納し ておく必要があります。

【理 データソースについての詳しい内容は、ユーザーガイド「5. データソース」をご参照ください。

テンプレート

次に、テンプレートを見てみましょう。テンプレートとはデータの流し込み先となる小組のひな形のことです。 テンプレートフォルダの中にあるドキュメントファイル「A」をレイアウトソフトで開きます。



いくつかのボックスが並べられていて、それら全体でひとつのグループボックスになっています。このひとつのグループボックスがテンプレートです。

細かい説明は後回しにして、とりあえずひとつ流し込みを行なってみましょう。

テンプレートを開いた状態で、先ほど開いたプロジェクトパネル右下の「レイアウト実行」ボタンをクリックします。

データソースの1件(1レコード)分のデータがテンプレートに流し込まれました。



それでは設定を見ていきましょう。

プロジェクトパネル左下の「オブジェクト設定パレットを開く」ボタンをクリックします。レイアウトソフトが前面に切り替わり オブジェクト設定パレットが表示されます。

Θ	オブジェクト設定	
0	データリンク設定	\supset
0	テンプレート設定	\supset
0	結合配置設定	\supset
C	パラメータクリア	\supset
0	プロジェクトに戻る	\supset

このパレットを使用してテンプレートの設定操作を行なってゆきます。

役職と氏名が流し込まれているテキストボックスを選択します。



グループボックス内のテキストボックス単体を選択する場合は、Adobe InDesign/Adobe Illustrator では、ダイレクト 選択ツール(白矢印)または文字ツール(T)を使用します。QuarkXPress では、編集ツール(手のひら)を使用します。

ボックスを選択したら、オブジェクト設定パレットの「データリンク設定」ボタンをクリックします。

データリンク設定パネルが開き、現在選択されているボックスに設定されたデータリンクの内容が表示されます。データリンクと はボックスとデータソースとの関連付けのことで、そのボックスに何を流し込むのかということを定義したものです。

		テキスト	リンク設定		
					+ - :
No. ヘッダ	ヘッダスタイル	フィールド	フィールドスタイル	フッタ	フッタスタイル
1	12L +	役職	その他 🛟		tal 🛟
2	tal 🛟	氏名 ;	氏名		tu :
オプション:	長体/平体	•			
オプション: 長体/平体:	長体/平体 5 %ずつ 50	・ %まで	文字サイズ縮小:	Pt#"つ	Pt#で
オブション: 長体/平体: ボックス拡張:	長体/平体 5 %ずつ 50 リミットなし	* %まで	文字サイズ縮小:	Pt#"つ	Ptまで
オプション: 長体/平体: ボックス拡張:	 長体/平体 5 %ずつ 50 リミットなし テキストをタグとし 	; %まで ; 、て読み込む	文字サイズ稿小: 他テキストオ	Ptずつ	Ptまで 連動
オプション: 長体/平体: ボックス拡張:	長佐/平佐 5 %ずつ 50 リミットなし テキストをタグとし データが空の場合	%まで 、 いて読み込む 含ヘッダフッタを無視	文字サイズ縮小: 他テキストオ データが空の	Ptずつ ⁵ ックスの拡張に D場合オブジェグ	Ptまで 連動 Dhを消去
オプション: 長体/平体: ボックス拡張: スクリプト:	長体/平体 5 %ずつ 50 リミットなし テキストをタグとし データが空の場合 データが空の場合 なし	%まで 、 、 、 、 、 、 、 、 、	文字サイズ稿小: 他テキストオ データが空の	Ptずつ マックスの拡張に D場合オブジェク	Ptまで 連動 2hを消去
オプション: 長体/平体: ボックス拡張: スクリプト:	長体/平体 5 %ずつ 5 %ずつ リミットなし テキストをタグとし データが空の場合 なし	%まで 、 、 、 、 、 、 、 、 、	文字サイズ縮小: 他テキストオ データが空の	Ptずつ ⁵ ックスの拡張に D場合オブジェク	Ptまで 連動 2hを消去

パネルの上部に表示されているのがリンクされているデータ項目(リンクフィールド)のリストです。

リンクフィールドの追加削除は「+」と「-」のボタンで、順序の入替は「上下矢印」ボタンで行なえます。

リンクフィールドにはそれぞれヘッダフッタとスタイルシートを指定することができます。

このボックスには役職と氏名の2つのリンクフィールドが設定されており、それぞれフィールドにスタイルシートが指定されて います。また、役職のフッタとして改行が入力されています。

さらにオプションとして長体 / 平体処理が指定されていますので、流し込む文字があふれてしまった場合でも自動的に変形がかか りボックスの中に収めてくれます。

チュートリアル

今度は画像ボックスの設定を見てみましょう。今開いているデータリンク設定パネルは、「キャンセル」ボタンをクリックしていったん閉じてください。

画像が流し込まれている画像ボックスを選択します。



ボックスを選択したら、オブジェクト設定パレットの「データリンク設定」ボタンをクリックし、データリンク設定パネルを開き ます。

	画像リンク設定
フィールド:	画像ファイル 🛟
オプション:	プロポーショナルトリム
縮尺倍率:	%
位置合わせ:	
	- ボックスを内容に合わせる
<i>አያ</i> ሀፖኑ:	 データが空の場合オブジェクトを消去 他テキストボックスの拡張に連動 なし キャンセル 設定

画像ボックスの場合はテキストボックスと違い、指定できるリンクフィールドはひとつだけです。オプションとして画像の調整方 法を指定することができます。

このボックスにはプロポーショナルトリムが指定されていますので、画像の比率を維持したままボックス全体が画像で埋まるよう に拡縮されます。また、位置合わせの指定により画像ボックスと画像のトップセンターが一致された状態で流し込まれます。

このように、テンプレートを構成する各々のボックスにテキストや画像のデータリンクが設定されていることにより、データの流 し込みが実現されるわけです。 ここまで、各ボックスの設定を見てきました。

しかし、個々のボックスにデータリンクの設定をするだけではテンプレートとしては機能しません。それらのボックスをグルーピ ングし、テンプレートとして定義してあげることで、はじめてそのグループボックスはテンプレートとして認識されます。 このテンプレートはすでにグルーピングされていますので、ツールを持ち替えてグループボックスを選択します。



グループボックスを選択する場合は、Adobe InDesign/Adobe Illustrator では、選択ツール(黒矢印)を使用します。
 QuarkXPress では、アイテムツール(十字矢印)を使用します。

グループボックスを選択したら、オブジェクト設定パレットの「テンプレート設定」ボタンをクリックします。 テンプレート設定パネルが開きます。

	テンプレート設定
種類:	● レコードテンプレート
	○ ヘッダテンプレート
	○ フッタテンプレート
スクリプト:	tal ;
(キャンセル 設定

このパネルでテンプレートの種別を指定します。テンプレートはその性格から3つの種類に分けられます。このテンプレートは 最も一般的なレコードテンプレートとして定義されています。

このテンプレート設定がなされていないグループボックスは自動レイアウト時にテンプレートとして認識されませんので、テンプ レート作成の際にはこの最後の仕上げを忘れないようにしてください。

【2 テンプレートについての詳しい内容は、ユーザーガイド「6. テンプレート」をご参照ください。

マスター

テンプレート単体でも先ほどのように流し込みを行なうこと自体は可能ですが、テンプレートだけでは1レコード分のデータし か流し込むことができません。連続して自動レイアウトを行なうためにはどうすればよいのでしょうか。

そこで、マスターという考え方を取り入れます。マスターとはページの基本構成となる台紙のことです。マスターにはあらかじめ テンプレートを配置しておく、もしくはテンプレートを配置するための仕掛けを施しておく必要があります。

それでは、マスターを見てみましょう。

テンプレートフォルダの中にあるドキュメントファイル「台紙_配置済」をレイアウトソフトで開きます。



ページ上にテンプレートが並べられています。これらのテンプレートにデータソースのレコードが1件ずつ流し込まれてゆくこ とになります。流し込みの順番はテンプレートの前後関係で決定されます。再背面にあるテンプレートが先頭となり、最前面のテ ンプレートが最後になります。

次に別のタイプのマスターも見てみましょう。

テンプレートフォルダの中にあるドキュメントファイル「台紙_結合」をレイアウトソフトで開きます。



こちらのマスターにはグレーのボックスが並べられているだけで、肝心のテンプレートが見当たりません。実はこのマスターには 自動レイアウトの際に動的にテンプレートを切り替えるための結合配置という特殊な設定がなされています。 結合配置の設定を見てみましょう。

グレーのボックスの1つを選択して、オブジェクト設定パレットの「結合配置設定」ボタンをクリックします。



結合配置設定パネルが開きます。

	結合配置調	设定	
● ペースト結合配			
 71- 	ルドデータ	07711	
テンプレート:	テンプレート		\$
位置合わせ:			
○ 7ロー結合配置	ł		
 フィー 	ルドデータ	07711	
テンプレート:	テンプレート		*
方向:	Z V	1°∑	N
	(++>+		設定

このパネルでテンプレートの結合配置の設定を行ないます。結合配置には2種類の方式があり、このボックスにはペースト結合 配置という、指定位置にテンプレートを貼り付ける方式が指定されています。

フィールドデータというラジオボタンが選択され、その下のメニューではテンプレートというデータフィールドが指定されていま す。これはどういう設定でしょうか。

これは、レコードのデータを流し込む時に、そのレコードのテンプレートフィールドに記載されたテンプレートファイルを、この グレーのボックスがある位置に貼り付けるということを意味しています。

もう一度データソースを確認してみてください。テンプレートというフィールドに「A」や「B」というテンプレートファイル名 が指定されているはずです。この情報をもとにして、使用するテンプレートを切り替えるという仕掛けです。

貼り付けられる位置はその下の位置合わせのラジオボタンで指定します。

【理 マスターについての詳しい内容は、ユーザーガイド「7.マスター」をご参照ください。

レイアウト実行

さあ、いよいよレイアウトの実行です。

まず準備として、先ほど確認した2種類のマスターのいずれかを開いておきます。

プロジェクトパネルの内容を見てみましょう。

データソース			ページ処理			
💽 テキスト	チュートリアルCSV.txt	\$	💽 現在のページの	<i></i>		
FileMaker Pro			○ 継続してページ	を追加		
Microsoft Exc	el		(71-)	ルドデータ 〇マス	ターページ	
○ その他	MySQL	:	マスター:			
7ドレス/ポート:						
データベース:			○ページ毎に別ド=	トュメントを作成		
名前/パスワード:			• 71-	ルデータ 〇マス	ターファイル	
エンコーディング:	Unicode	:	マスター:		*	
SQL:		Ť	保存			
(1844)			۲×۲۲ 🗌	PDF [高品質印	刷] 🕴	
250476			名称: プロジェク	小名 : チュー	トリアル	
画像フォルダ			保存スクリプト:	なし	\$	
画像フォルダ:						
選択			スクリプト			
			開始スクリプト:	tal	\$	
		_	終了スクリプト:	tal	\$	
	1 ~		その他			
○ 現在のレコードから 件		── 実行前にドキュメントフォルダをクリア				
1.174-4-6-1			 実行前にログフ:	ォルダをクリア		
2479F2=99F	(111.15.)		置換リストを使用	1 置換り:	ストを編集	
ターゲット:	Adobe InDesign	•	テキストのアウト	ライン化		
	オブジェクト設定パレットを	em<		マレートかない場合は何もし	しない れもレポート	
-		_			Contract (

データソースは、先ほど確認したテキストファイルが指定されています。

データ範囲は、「1~」となっています。これは1レコード目から始めて最後のレコードまで流し込むということを意味しています。

レイアウトターゲットは、使用するレイアウトソフトが指定されています。

ページ処理は、「現在のページのみ」が指定されています。これはレコードの数に関わらず現在表示されているページが完了した らレイアウトを終了するということを意味しています。

その他では、「ログレポートを表示」にチェックが入っています。これは、エラーが発生した場合に作業完了時に知らせてくれる 機能です。 それでは、「レイアウト実行」ボタンをクリックしてください。



うまく流し込みが実行されましたか。



マスターを変えたり、データ範囲を変えたりするとレイアウト結果も変わってくるはずです。いろいろと試してみましょう。

レイアウト実行についての詳しい内容は、ユーザーガイド「8.レイアウト実行」をご参照ください。

【注 このチュートリアルでは、Ge-DALeの機能の一部分しか紹介していません。チュートリアルで触れなかった機能や、より詳しい内容に関してはユーザーガイドを参照してください。また、その他のサンプルプロジェクトも参考にしてみてください。